

## 北西太平洋サンマ中短期漁況予報

-分布回遊状況解析調査に基づく実用化試験-

### 1. 今後の見通し

予測期間:2010年11月中旬から12月下旬までの旬別  
 対象海域:道東海域、三陸海域、常磐海域  
 対象漁業:さんま棒受網漁業  
 対象魚群:南下回遊群

#### 1) 道東海域

(1) 来遊量: 来遊量少なく、終漁となる。

(2) 漁場: 漁場は形成されない。

#### 2) 三陸海域

(1) 来遊量: 11月中旬は、中位水準となる。来遊量は徐々に減少し、11月下旬には低位水準となる。12月上旬には断続的となり、終漁となる。



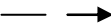





(2) 漁場: 11月中旬～12月上旬は、南部に漁場が形成される。

#### 3) 常磐海域

(1) 来遊量: 来遊量は徐々に増加し、11月中旬は低位水準、11月下旬は中位水準となる。12月上旬には減少を始め、12月上旬～下旬は低位水準となる。

(2) 漁場: 11月中旬～下旬は、常磐北部において漁場が形成される。12月上旬に漁場が南部まで広がる。12月中旬に北部の漁場が消滅し、漁場は南部のみとなる。

### 2. 予測の概要

海 域		11月中旬	11月下旬	12月上旬	12月中旬	12月下旬
道東海域	来遊量					
	動向					
	漁 場					
三陸海域	来遊量					
	動向	中位減少	低位減少	断続的		
	漁 場	南部	南部	南部		
常磐海域	来遊量					
	動向	低位増加	中位増加	低位減少	低位水準	低位水準
	漁 場	北部	北部	北部～南部	南部	南部

### 3. 漁況の経過概要

(10月下旬)

#### 1) 道東海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を下回り、前年並みの低位水準であった。日別CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期前半に来遊量は減少したが、期後半にやや増加した。

##### (2) 漁場

道東海域の主漁場は、落石沖、釧路沖、襟裳岬沖であった。

落石南～南南東沖の80～220海里付近(表面水温10～14℃)。この漁場の南側は道東海域よりも沖側であり、三陸海域よりはるか東沖である。ほぼ連日、大型船が1～25隻程度と、小型船数隻～10隻程度操業。10～120トン漁獲。

釧路南沖の20～40海里付近(表面水温11～13℃)。小型船数隻～25隻程度操業。28日夜以降は大型船が数隻操業。大型船で70～13トン、小型船で10～25トン漁獲。

襟裳岬南東～南南東沖の100～120海里付近(表面水温14～17℃)。21～23日夜と29日夜に大型船が数隻～30隻程度操業。大型船で数トン～95トン漁獲。

##### (3) 魚体

22～25cmモードの中型魚主体。

#### 2) 三陸海域

##### (1) 来遊量

資源量指数から判断した来遊量の水準は、10月中旬を上回り、中位水準となったが、前年よりも少なかった。日別CPUE(1網当たりの漁獲量)から判断すると、期半ばにかけて来遊量は徐々に増加したが、期後半にはやや減少した。

##### (2) 漁場

三陸海域の主漁場は、久慈～気仙沼沖であった。

久慈東～気仙沼東沖の30～70海里付近(表面水温13～16℃)。連日、大型船が数隻～40隻程度と、小型船が多数操業。大型船で10～110トン漁獲。

なお、三陸海域よりはるか東沖の久慈東200～240海里付近(表面水温12～13℃)でも、19日夜以降、大型船が数隻～40隻弱操業。数トン～105トン程度漁獲した。

##### (3) 魚体

30～31cmモードの大型魚主体。大型魚は体重140g台が多い。